

令和3年度 第1回はままつ人づくり未来プラン推進委員会

開催日時：令和3年10月8日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで

場 所：浜松市立篠原中学校

出席者：はままつ人づくり未来プラン推進委員会委員

花井 和徳 （教育長）
安田 育代 （教育委員）
黒柳 敏江 （教育委員）
田中 佐和子（教育委員）
神谷 紀彦 （教育委員）
鈴木 重治 （教育委員）
田中 孝太郎（学校教育部長）

（有識者）

藤田 晃之 （筑波大学教授）
島田 桂吾 （静岡大学大学院准教授）

（学校関係職員）

河合 貴幸 （曳馬小学校校長）
杉山 真也 （東部中学校校長）
宮内 真実 （篠原中学校校長）
真野 幹久 （篠原中学校教諭）

（関係課職員）

吉積 慶太 （学校教育部次長兼教育総務課長）
石野 政史 （指導課長）
佐藤 匡子 （教育センター所長）

（事務局）

竹内 孝夫 （学校教育部参事）
影山 和則 （教育総務課専門監）
川副 哲士 （教育総務課主幹）
羽生 和斉 （教育総務課主幹）
石原 麻美 （教育総務課指導主事）
伊藤 稚佳子（教育総務課副主幹）
村松 勇佑 （教育総務課主任）

傍聴者 4人

議事内容

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 授業参観
- 4 協議
 - (1) 令和3年度キャリア教育推進に関する取組状況について
 - (2) キャリア教育のさらなる推進に向けて
- 5 有識者 総括
- 6 その他
- 7 閉会

会議録作成者 村松 勇佑

記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

第1回はままつ人づくり未来プラン推進委員会 会議録

1 開会

(吉積次長)

令和3年度第1回はままつ人づくり未来プラン推進委員会を開催する。今回は有識者として、筑波大学 藤田晃之先生 静岡大学大学院 島田桂吾先生に御出席いただいている。本日は授業参観後に協議を予定しているため、授業参観の様子等を踏まえ、御助言をいただきたい。

本日は学校での開催ということで篠原中学校にも対応いただき感謝申し上げます。なお、本日の会議は公開である。

2 教育長挨拶

(教育長)

これからの時代を生きていく子供達には、社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくのか、という目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付ける、ということが重要になってきている。生きる力を充実させるための取り組みの一つがキャリア教育であり、子供達が力強く生きていくために必要な資質・能力を育てていく、という重要な役割が期待されている。

こうしたことから第3次浜松市教育総合計画 後期計画では、キャリア教育を核とした人づくりを推進しており、本市ではキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための教育」と捉えている。こうしたキャリア教育の基盤を確たるものとするために、教育委員会では令和元年度から「キャリア教育実践モデル校」を指定し、キャリア教育の全市展開に取り組んでいるところである。また、昨年度は、本日お越しいただいている藤田先生にも御協力と御尽力いただき、校長会とのコラボレーションによる、「浜松市キャリア教育ガイドブック」を作成することができた。藤田教授にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

そして各学校では、今年度から新たにキャリア教育推進教師を選任し、校内の推進体制を整え、ガイドブックを実践の道標としながら、全ての学校がキャリア教育を視点に置いた教育活動に取り組んでいる。

本日の会場である篠原中学校は、令和元年度からキャリア教育実践モデル校として、校長の強いリーダーシップのもと、教員がキャリア教育の意義を理解しながら、授業や特別活動等を通じた意図的なキャリア教育の実践を重ねてきた学校である。皆様にはこの後、縦割り活動の振り返りの活動を参観いただく。参観を通じてキャリア教育に対する理解を深めていただくとともに、さらなる推進に向けた忌憚のない御意見をいただきたい。

3 授業参観

(教育長) 授業参観の前に、本日の活動内容について宮内校長から説明を願う。

(宮内校長) 本校では特別活動における縦割り活動を核としたキャリア教育の実践を進めてきた。キャリア教育実践の概要を説明する。

資料1は、縦割り活動のねらいとキャリア教育の関連についてまとめたものである。

1つ目 本校の学校教育目標は「共に理想を追求し、自己実現を目指す生徒」であり、キーワードとして「共生」と「自立」を掲げ、教職員だけでなく生徒もキーワードを常に意識しながら様々な活動に取り組んでいる。

2つ目 本校は学校行事へ伝統的に縦割り活動を取り入れており、異学年集団との関わりを通して達成感や充実感を味わわせることは、子供達に「共生」について考えてもらう上で、非常に有効な手立てであると考えている。

3つ目 活動後には振り返りの場を設定している。自己の成長を実感させ、将来への気づきを深めさせていくことで、子供達「自立」を促す上で有効な手立てと考えている。

4つ目 今年度は、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力の4つの力を子供達に分かりやすく、目指す姿として「人を大切にする力」、「自分を大切にする力」、「考える力」、「チャレンジする力」と整理し、教員も子供達も共に理解をしながら進めている。学校教育目標のキーワードである「共生」と「自立」は、4つの力に重なっており、子供達もある程度理解できている。活動を通して学んだことが、自分の将来につながっていくことを意識させることで、未来の自分の姿をイメージさせることにつなげていきたいと考えている。

続いて授業の流れについて説明する。本授業は、これまでの活動の振り返りとこれから行われる合唱コンクールに向けての見通しを持たせるものである。特に、4つの力の具体的実践内容を、生徒達がどのように意識して取り組んできたのかに注目していただきたい。

本日は、新型コロナウイルス感染症の対策として、4集団を分散して授業を行うが、皆様には体育館で青組集団の活動を参観いただく。

4 協議

(1) 令和3年度キャリア教育推進に関する取組状況について

(教育長) キャリア教育推進に向けた今年度の取り組みについて、事務局から説明を願う。

(事務局) 資料5は、今年度のキャリア教育推進に関する取組状況をまとめたものである。

1 キャリア教育実践モデル校の選定について、教育総務課では、令和元年度からキャリア教育実践モデル校を選定し、キャリア教育の全市展開に向けて取り組んでいる。今年度は小学校10校、中学校3校を選定し、モデル校への訪問指導のほか、授業実践の事例や先進事例について各学校へ情報提供している。また、今年度は実践モデル校の最終年度となることから、実践モデル校の成果を発表する場として、11月11日に「キャリア教育推進フォーラム」の開催を予定している。

2 キャリア教育の視点を踏まえた指導では、指導課の指導主事による計画訪問の際、各学校のキャリア教育の実践状況について実態を把握し、キャリア教育ガイドブックを活用して、教科等の目的やねらいとキャリア教育で育てたい力の重なりを意識した実践への支援を行っている。9月末時点で79校の訪問を実施している。また、学校からの要請による訪問指導では、キャリア・パスポートの効果的な活用等について指導を行っている。

3 キャリア教育に関する研修等の実施・支援では、今年度から各学校のキャリア教育の推進役として位置づけられている「キャリア教育推進教師」への研修をはじめ、キャリア段階に応じた研修においても、キャリア教育に関する研修を実施、または実施予定となっている。そのほか、中学校区の合同研修会や校内研修、市教育研究会等においても要請により研修を実施している。

4 キャリア教育推進教師の選任では、今年度から各学校において「キャリア教育推進教師」を一人選任している。推進教師は、キャリア教育全体計画の作成や校内研修の促進等の役割を担い、キャリア教育の推進役として活躍している。

5 浜松市キャリア教育ガイドブックの活用について、本年2月に校長会と教育委員会とのコラボレーションにより、藤田先生にも監修いただく中でキャリア教育実践の道標となる「浜松市キャリア教育ガイドブック」を作成した。今年度は訪問指導や研修等、様々な場面でガイドブックが活用されている。

(教育長) 今年度から、各学校で「キャリア教育推進教師」を選任し、キャリア教育の推進役を担っているが、各学校の状況や変化等について説明を願う。

(河合校長) 校長会では、7月にキャリア教育に関する実態把握調査を実施した。調査の結果、92%を超える学校で、「校長が推進教師の役割を各校で明確に伝えている」と回答があった。各校の校務分掌に位置付けたことで、校長や教員の意識が変わり、校長のリーダーシップのもと、各校の実態に応じたキャリア教育を進めることができている、と捉えている。また、キャリア教育推進教師が自らの役割を自覚し、中心となって進めるようになったことで、教員も子供もキャリア教育を身近に感じるようになった。また、93%を超える学校で「キャリア教育で育てたい力を設定している」と回答があり、73%の学校では「掲示物等を用いて育てたい力を子供達に意識させている」と回答があった。

曳馬小学校では、ガイドブックで必要な部分を読み込みながら、教職員が掲示

物を作成し、子供達と共にキャリア教育で育てたい力を共有しながら、実践に結び付けている。より良い生き方を具現化するためにも、キャリア教育が自然に教職員や子供に浸透していつているのを感じている。

(杉山校長) キャリア教育推進教師が中心となって、ガイドブックの中から必要な部分を活用して年間指導計画や実践が進んでいる。今年度になり、モデル校の学校から教員が転任してきており、その教員が率先して進めているが、教員の中でも意識が変わってきている。中学校では特に教科指導、学校行事、特別活動や部活動等、全ての部分でキャリア教育は関わってくる。篠原中学校では特別活動を切り口としているが、東部中学校では総合的な学習の時間を切り口にして、探究活動に今年度から取り組んでいる。昨年度までと比較して、子供達は基礎的・汎用的能力を言葉ではなく、実感として感じており、それが教科の勉強に生きてきていると感じている。

(教育長) 教育委員会の立場として、指導課は計画訪問で各学校を訪問しているが、訪問において、キャリア教育推進に関する変化をどのように受け止めているか。

(指導課) 指導課では指導主事が年に1回、各小中学校を訪問している。キャリア教育については、計画訪問の事前打ち合わせで進捗状況を確認している。これまでは教頭や研修主任との打ち合わせが主であったが、今年度はキャリア教育推進教師と打ち合わせをする学校も見受けられるようになってきた。打ち合わせではキャリア教育の目標や育てたい力に関する事、キャリア教育の指導に関する事、キャリア教育の評価に関する事の中で、どこに課題があるかを聞き取っている。その際にガイドブック内のチェックリストを参考にして進捗状況を確認している。訪問時には、事前に聞き取った課題について、全体会の中で指導主事が指導をしている。特に、ガイドブックの年間指導計画の部分において、作成と活用について多くの学校で指導をしている状況である。グランドデザインや全体計画、年間指導計画等については、学校全体でキャリア教育を推進していく上で、はじめの一歩である。年間計画をどう見直していけばよいか、どのように活用してカリキュラムマネジメントを進めていけばよいか、ということを経験主事から指導している。

今年度訪問して、授業面での変化については、教科の目標やねらいと、キャリア教育で育てたい力との重なりを意識した実践がみられるようになってきている。年間指導計画に位置付けられているキャリア A の単元を授業公開する学校もある。

環境面の変化としては、年間計画を提供したり、キャリア・プレートを黒板に貼ったりして、子供達が今の学びが将来とつながっていることや学びの意味を意識するように取り組んでいる学校もある。篠原中学校では、生活ノートに4つの力に関するものを入れており、学校として意識しているということが読み取れるようになっている。

(教育長) 島田先生から、教育委員会の取り組みについて御助言をいただきたい。

(島田先生) 要点は2点ある。1点目として、私は以前から浜松市の施策に関わっているが、キャリア教育の推進について、当時は学習指導要領にも位置づけがなかったため、

どうすればよいか分からなく、時間がかかる、ということを感じていた。そのような中、今年度から選任しているキャリア教育推進教師や校長会と作成したキャリア教育ガイドブック、実践モデル校の拡充等、着実にキャリア教育がどのようなものを各学校に下ろしていると感じている。

2点目として、キャリア教育の展開方法は学校によって多様であるという点である。特にモデル校を見ていて感じるが、篠原中学校は特別活動、東部中学校は総合的な学習、三方原小学校は各授業の中で取り組んでおり、多様性が見られ、その多様性はキャリア教育の特徴である。多様であるのは良いが、具体的に進めていく際に、校長の経営戦略や学校目標との整合性がとれているかがポイントとなる。本日の篠原中学校の活動を参観して、学校目標である「共生」と「自立」というキーワードの話があったが、異学年集団ということで多様な人がいる中で、どう決めていくか、その中でそれぞれ「リーダー」「フォロワー」としてどう役割を果たしていくかという点から「共生」と「自立」が教育活動、カリキュラムに下りてきていると感じている。篠原中学校では、どのように育てたい力を育成していくのか、それがキャリア教育と学校目標でリンクしていることが強みである。地域や子供達によってどこに力点を置くかは異なってくると思われるため、キャリア教育をどのように展開していくかは多様であって色々な事例があってよい。今後もキャリア教育と学校目標との整合性を踏まえて展開をしていくとよい。

(2) キャリア教育の更なる推進に向けて

(教育長) 次にキャリア教育の更なる推進に向けて協議を行う。本日の授業参観や、学校の状況を伺う中で教育委員から質問等はあるか。

(安田委員) まずは授業参観の感想について申し上げる。最初に校長から、キャリア教育の文言について子供達に浸透していると話があった。小グループの話し合いの中である生徒が「道のりの中でレベルアップしていきたい」と話をしていて。また、合唱コンクールに向けての話をした際には、3年生だと思われるその生徒が1年生、2年生に「考える力を発揮していけば、色々なことができるようになるから大丈夫」と発言していて、リーダー以外の生徒にも浸透していると感じた。

もう1点、スライドが流れている時に後ろから見ていて、生徒たちはスライドに対してもっと反応したいのではないかと感じた。本当は声を出したい、しかし後ろで大人が見ていると思うと行儀よくしていなければならないと感じていたとしたら申し訳ない気持ちがある。あのスライドは実際に体験をした生徒たちにしか分からないものがあると思うので、青組以外は盛り上がっているのか、人がいるかないのかに関わらず他の集団もそうなのか、実態を教えてください。

また、合唱コンクールに向けて話をしている時に、3人の男子グループが、「男子はよく出来ているが、女子が問題だ」と言っていた。私の感覚でいくと女子が「女子は出来ているんだけど男子が」と考えていると思ったが、これが今の篠原中の実態か、興味がある。

(教育長) 安田委員から、実態がどうかという話があったが、校長から可能な範囲で回答いただきたい。

(宮内校長) 別の会場でも同時開催しており、私は体育館と別会場を行き来していたが、雰囲気は全然違う。他会場の生徒はもう少し和やかで普通の生徒の様子に近い。一般的に、今の篠原中の生徒は大人しめであり、男子の方が地味かもしれない。キャリア教育推進教師の真野は3年の担当だが、真野から見てどう見えるか。

(真野教諭) コロナの影響があり、本日も体育館に集まったが、縦割り集団の規模であっても全体で室内で集まって何かするということがここ1、2年なかった。あのような場面で果たして声を出してよいのか、笑ってよいのかという戸惑いが生徒にある。今年の1年生は歌うこと自体もあまりなかったため、合唱コンクールの練習自体も普段大きな声で活動している男子は声を出しやすいが、大人しく真面目にしている女子は、いざ歌う時に、これまでそのような場面がなかったため高い声を出しづらかったり、大きな声を出しづらかったりするということがある。担任内では、女子の合唱コンクールの反省でどうしたらよいか困っている、というのは職員室でも話に出ている。

(教育長) 他に意見等はあるか。

(黒柳委員) 私にも中学2年生の息子がいるが、このキャリア教育が、学校でどのように取り組んでいるのかが伝わってこない部分があり、見える化をしていただけるとありがたい。篠原中の生徒たちは、自分たちがやらなければいけないことをしっかりと把握しているなど感じた。3年生からは自分が引っ張っていったあげなきゃいけないという思いが伝わってくるグループもあり、本当に素晴らしいと思う。

なかなか発言が出来ない1年生がいても、優しく声を掛けてあげるといふ、篠原中がキャリア教育で育てたい力の「人を大切にする力」がすごく身に付いてきているなど感じる。また、3年生の合唱コンクールに向けての思いがすごく熱い。青組は賞がとれていないということも言っており、最後だから賞を取りたいと言っているのを見ると、自分たちも頑張っていかなきゃいけないとか、皆と関わりを持って1つの目標に向かっていくことが本当に大事なことだと思った。あるグループでは、当たり前のことを人並みに行えばよいと言っており、皆で同じ思いで取り組めば、それが一番大切なことだから、そこから頑張っていこうという声掛けが出来るのは本当に素晴らしいことだと思った。

先ほど盛り上がりが無かったという話があったが、私も昨日、高校の体育祭に行ってきた、同じような光景があった。コロナで声を出さない生活に子供達が慣れてきてしまっているということを実感した。綱引きも、力を出す時に声が必然的に出るものだが、シーンとした中での綱引きで、異様な光景を見させてもらった。綱引きはマスク着用でやっていたので、教員も声を出してよいと言っているが、本当に出してよいのかどうか分からないという子供達の慎重な雰囲気があった。今日も、子供達は大人しくスライドを見ていて、感情が抑えられているところがかわいそうというのは常日頃感じており、それを引き出す手立てが、今後課題になってくると思う。私も読み聞かせを2か月ぶりにやったら途中から声が出なくなってしまい、声を張り上げて話すということをしなないと衰えてきてしまうと感じた。喉を鍛えましょうと言ってもなかなか鍛えられるものではなく、自分自身本当に驚いて、経験してみないと分からないことだと思うが、そこを負担のないような形で子供達に上手く伝えられたらと思う。

(教育長)

黒柳委員から重要な指摘があったが、キャリア教育がどういうものか分かりにくい。そのため、学校側から家庭・保護者への周知・PRが大事なのではないかという点について、私もその通りだと思う。そこで校長先生方に伺いたいが、キャリア教育を推進していく上で、家庭や地域との連携が非常に重要になるが、それについて実際の取り組みについて何かあるか。

(河合校長)

関連した校長会アンケートの結果を紐解くと、7月の時点で市内小中学校で82%を超える学校が、学校だよりやコミュニティ・スクールだより、HPやブログ等でキャリア教育の情報を発信しているとの結果が出ている。本校でも学校だよりでキャリア教育とはどのようなもので、どのような意義があるかを伝えたい。学校だよりやHP等でその都度子供達の様子を定期的に情報発信している。今後はより具体的な実践を保護者に伝えられるよう、努力義務として考えていきたい。コミュニティ・スクールの導入も進んでいるため、コミュニティ・スクールを活用した情報発信もできると考えている。

(杉山校長)

河合校長が話したとおり、学校だより等での情報発信は行っているが、言葉だけの情報発信ではイメージが難しい。子供にとっても、各授業で4つの基礎的・汎用的能力を本校なりに4つの言葉にして、こういう時はこういう力だ、と示すが、なかなか実感が広がらないため、今年度から総合的な学習の時間の中で、探究活動を3年計画で取り組んでいて、企業4社に御協力いただいている。このこ

とを保護者にも広めており、2年生が今後2学期の総合的な学習の時間内で取り組んでいくが、かなり浸透していくと考えている。

(教育長) 宮内校長に伺いたいですが、保護者への周知という視点も大事だと思うが、令和元年度からの実践モデル校として取り組むにあたり、キャリア教育推進のポイントは何だと考えるか。

(宮内校長) 大きく2点あり、1点目は体制整備である。私が赴任して3年目になるが、赴任当初にキャリア教育に力を入れたいということでグランドデザインを見直した。最初は、キャリア教育は生徒が社会に出た時に必要な力を身に付けることを目標にするものであり、難しいことではないと職員に話をした。今行っている教育活動をキャリア教育の視点で整理していくという考え方を職員に示した。生徒には始業式や集会等を通して、みんなの将来につながることをやっていこうと話した。当初は、資料2にあるように重点目標は3つずつなかったが、どういう力が社会に出た時に大切か、ということをお子達に示し、合言葉についてもすごく身近な言葉、例えば、「人を大切にする力」、「自分を大切にする力」等によって見える化するのを重要視してきた。

また、本校は特別活動に力を入れており、東部中は総合的な学習の時間に力を入れているが、本校は特別活動を切り口に何かできるのではないかと感じていた。中学校は教科担任制であるため、それぞれの教科からスタートするとなかなか難しい。総合的な学習や学校行事では、どのクラスも同じことを行うので、中学では一番適していると感じて進めてきた。また、キャリア教育推進教師が中心となって進めているが、キャリア教育推進教師に私の思いを伝えると、上手く職員に伝達してくれる。今回の活動については特別活動主任が取り仕切っているが、その連携、もちろん、教務主任や教頭も同じ思いを持って子供達や保護者に発信をしているが、その体制が重要である。

先ほどの見える化という部分では、生活ノートに子供用のグランドデザインを載せ、資料2も刷り込んである。子供ももちろん内容は分かり、保護者も共有している。本校では、毎年学校スローガンを決めており、先ほども団長が「Challenge&Change」と言っていたが、これも4つの基礎的・汎用的能力に絡んだ学校スローガンを私が決めているが、昨年は「Challenge」であった。今年は、チャレンジするだけではなくて、共生をする中で自分が成長をしていく、そして自分を変えていく、ということで「Change」を加えた。他にも色々な意味があるが、そのような意図がある。それからキャリア教育推進教師が作成している進路だよりも3年だけではなく、全校版を作成している。全校版を通してうまく推進しているということで、体制整備と掲示物、見える化によって伝えている。

あともう1点、キャリア・パスポートのコメントについても、キャリア・パスポートの意味を保護者に伝え、これがどういうものかということをお子達に伝えることによって、コメントの内容が変わってくる。通信簿のコメントを見ると、一言で終わってしまうこともあるが、キャリア・パスポートのところには、生徒への温かい言葉が書かれている。

(教育長) 推進していく上でのポイントを具体的に示していただいたが、この2年と半年

で成果や手ごたえを感じていると思う。これまでの実践で、子供の変容や教員の取り組み等の成果について、どのように捉えているか。

(宮内校長)

成果だが、私も単発で職場体験等がキャリア教育になるという認識で、そういうイメージしかなかった。今回、特別活動や日常生活の中の振り返りにキャリア教育を取り入れることにより、キャリア・パスポートの記述であったり、生活ノートに記述であったり、帰りの会の教員の子供達への語りかけ等が変わった。私が全校集会で話をした後に校内を回ってみると、学級担任が、校長先生がこういうこと言っていたよねと、子供達に語りかけてくれている。

目指したい子供の姿について、子供達がどう取り組んできたかということを確認するために、アンケートをとって毎年分析している。この文言についても3項目あるが、毎年少しずつ変えている。真野教諭が分析しているが、その表れからもちょっと特徴的なことがある。

(真野教諭)

こちらにそれぞれ4つの力について3つの項目があるが、昨年度と異なる内容となっている。年度初めの4月に進路だより全校版というものを出しているが、その中で4つの力について保護者の方にも伝え、どういう行事がこの4つの力と関わっているのかを示した後、子供達は進路だよりを見ながら目標を立てているため、1学期を終えた段階でアンケートを実施して結果を分析している。

結果は非常に特徴が出ていて、4つの力だと「人を大切にする力」については、異年齢集団での活動や、学校行事、学年行事を通しての活動で、子供達はこの3つの項目ができたという評価がとても高い。一方で、本校は、一小一中ということで、小学校から人間関係がそのままという状態で中学校に進学しているという状況がある。自分の力を固定してしまったような人間関係の中で自分を出しづらくなっているというのが、「自分を大切にする力」の課題である。ただ、子供達はそのままよいと思っていないというところも、「考える力」や「チャレンジする力」のところで出ていて、変えたいという思いはあるというのがアンケートの結果で出てきている。ただその変えていく段階で、見通しを持って段階的に変えていくという手順が、まだ自分たちでは工夫できないというところがアンケートを分析していると出てくるので、教員用の進路だよりには、分析した結果を載せて、2学期の授業や行事で、こういったものが私たちが取り組んでいかなければいけない課題だということを伝えている。

保護者や生徒に出す全校版のアンケートの分析については、1学期に頑張ったことを認めながら、2学期にどういった学習場面や特別活動等の場面で、どういった手順を踏みながら段階的に力を付けていくことが自信につながるのかということアドバイスをしながら、たよりを作って配付している。

また、アンケートを取りながら、来年度の3つの項目についても、校内で検討していく形になると思う。

あともう1点、4月に行った全国学力学習状況調査でも、同じような傾向が出ていて、「他の子と一緒に活動する部分についてはできている」が、「自分で自信を持って進めていくというところが苦手である」という傾向が出ているので、本校のキャリアを進めていく中で、1つの課題であると思う。

(教育長) 課題について話があったが、もう少し大きくキャリア教育を推進するにあたって、例えば、キャリア教育ガイドブックや推進教師もあり、一応基盤は出来たと思っていて実践を進めているが、今後更に推進するための課題をどういうものがあると感じているか

(河合校長) 篠原中の特別活動は、イメージができ、素晴らしい取り組みだと思う。本校は、授業を中心にキャリア教育を組み立てていて、校長・推進教師から一般の教職員に意識が広まって、気が付いたら年間計画に写真が添付されて広がりがあったり、授業をちょっと見るとキャリア・プレートが掲げられていて、振り返りがあったり、だんだん浸透していると感じる。

資料5の1-(2)に、各教科の特質に応じたキャリア教育の関連が大切ということがあった。これから中学校における各教科の授業におけるキャリア教育の必要性とその手立てについて示していただけると、その部分が深まるのではないかと小学校の立場から思うので、藤田先生に示していただけるとありがたい。小学校・中学校の繋がり点でもそう感じる。

(教育長) 藤田先生からは、11月のキャリア教育推進フォーラムの時に話していただければと思う。杉山校長はどう考えるか。

(杉山校長) 河合校長から教科でという話があったが、篠原中では特別活動、そして東部中では総合的な学習の時間と、全教職員が関わるというのは、同様である。この力が必要なのだというイメージがとても出来るということ、取り組みながら実感する。今取り組んでいるものでは、企業4社が来て、しゃべりが上手な人だけではなく、様々な子供が皆活躍できるプログラムになっていて、全員が関わる。その一人一人が、かなり大切にされるような実感が湧くような、一言で言えばそういうものとなっている。どうしても中学では、高等学校への進学のための勉強になりがちで、もちろんそれも大事であるが、なぜ勉強しているのかということを実感するというか、なぜその教科を勉強しているのか、それを大人になって使えるのかということよりも、今これを勉強することによって何があるのかということ、実は落ちているのではないかとこのころを企業も一緒になって考えてくれている。一つ例を挙げると、企業の方に言われて印象に残っているのは、「子供達は皆、先生の板書を写すこと・ノートに書くことは非常に出来ている。しかし求めているのは、この中で大事なことは何かということ自分で選ぶ力を付けていかないと実践にはつながらない」という話であった。実感させて教科へ活かしていくということを考えている。

(教育長) 今、小学校・中学校それぞれの立場から課題について話していただいたが、「家庭と地域との連携」も大事なテーマだと思う。その点で、島田先生からキャリア教育における家庭と地域の連携という視点でお話をいただきたい。

(島田先生) 先ほどの話と関わりもあるが、今まではどうしても職場体験活動とか、単発のイベントがキャリア教育と捉えられていたが、今回篠原中学校をはじめとする様々なモデル校で、年間を通したカリキュラム・核ができ始めているのかなと思う。それが校長の経営戦略や学校目標との整合性も関わってきて、また、その中でどういう子供達を育てたいのかという意図を保護者に伝えたり、コミュニテ

ィ・スクールを導入している学校では、学校運営協議会で承認事項として提案していったりするところも一つだと思う。もう一つは、学校関係者評価で保護者アンケートの項目に入れていくのも一つの方法だと思う。教育課程や経営方針を学校運営協議会で承認していく、そして学校運営協議会が、保護者に対して努力義務を持っているという関係性から、承認した教育課程を実際どう活動して子供達がどう変わるかというのを学校運営協議会や保護者が見ていく。ただ単に評価しようとするだけだと表面しか見えてこないのが、キャリア・パスポートの見える化や掲示物等、イベントの中で子供達が発する言葉に注視していくというのが、キャリア教育、評価項目につながっていく。そして1つのPDCAサイクルができてくる。それを踏まえて来年度の活動をどうしていくのかとか、またそれを学校ごとにやっていくことで、小学校との接続をどうしていくのかとか、そういった形の流れが見えてくると思った。浜松市の場合、コミュニティ・スクールを進めていくということがあるので、学校評価との関連性も合わせて検討することが結果的に保護者や地域への周知となるのではと思う。

(教育長) 藤田教授から協議の総括をしていただく。

(藤田先生) 本日の授業では、安田委員から指摘があったとおり、ソーシャルディスタンスをとらなければならない、声をあげることができなかったのはかわいそうだった。生徒たちは、教室に帰ってから感想を言い合うのだろうと想像した。授業では様々な場面があったが、印象的だったのは最後に紹介いただいた壁画を作る場面であった。そしてリフレクションのスライドの一番最後に出てきたメッセージは何気なく見てしまうと見落としてしまうメッセージだが、後から詳しく述べるが、重要だと感じた。

そして全体の映像を見た後で、団長が一生懸命話をしていて、手の動きから緊張が伝わってきたが、頑張って話をしていて、そして、皆をまとめたいし、よいフィナーレにしたいと団長自身が強く思っていると感じることができた。授業の中で一番良かったと思う点は、小グループでの話し合いである。学年を超えて3年生がリーダーシップを発揮しながらも、最初は話が盛り上がらなかったグループもたくさんあった。しかし、その沈黙をどうにかしなければいけないという場面に置かれて、不得意ながらも、またはどうしてよいか分からないながらも3年生が工夫をし、リーダーシップを発揮して3～5人のメンバーをまとめながら話を進めていくところが素敵だと感じた。人数が少ないため、下級生にどう思ったかを聞くと、きちんと話してくれる。このような少人数でのグループ活動がきちんと企画されている、皆に出番がある構成にした企画力と教育力に感銘を受けた。

そして、生徒たちが作成していた壁画が最終的にこのような形になるということも教えていただき、私自身も子供達も楽しみにしているだろうな、先輩はあのようにつくったが、自分たちはどうなるのかなときっと思いながら心待ちにしているんだろうと思う。そして今日拝見した資料に、校長からの説明にもあったとおり、「共生」と「自立」という言葉がキーワードになりながら、特に特別活動を中心に、縦割りの異学年集団によって「共生」を、そして、振り返る場面によって「自立」を、ということできちんと構造的な把握をしている。最も今日重要だと思ったのは、この育てたい子供達の力を教職員だけではなく生徒もキーワードを常に意識している、まさに今日指摘があったところである。子供達の中で普通に言葉として出てくる、そういうところが縦割り班との関連がきちんとつけられていて、非常に重要だと感じる。

それから、素敵なお話があったので、皆さんと共有したいと思っている。それは「キャリア教育との関連」である。何気ないどうでもよいような言葉に感じるが、キャリア教育にとっては非常に重要で、縦割り班活動のねらい、これは特別活動のねらいである。「キャリア教育との関連」と書かれているが、この部分が「キャリア教育の目標」となってしまうと、特別活動のねらいもあってキャリア教育の目標もあって活動が2つに別れ、ずれてしまう。特別活動は特別活動としてねらいがあって、その狙っている活動の中にキャリア教育がどう関連しているのかということを見出す、気付く。このような形であれば、特別活動が特別活動として生き、その中にキャリア教育が生きてくるので、win-winの関係になっている。特別活動の目標とキャリア教育の目標を並べてしまうと、場合によっては

仲違いをしたりずれたりしてしまうので、何気ない言葉遣いではあるが、この関連という言葉遣いは非常に重要であると感じた。それがちゃんと貫かれている。特別活動の本筋をちゃんと活かしながら、その中にキャリア教育の力を発見し関連性を皆で意識していく、ということが非常に重要なポイントであると感じた。

それから4つの力で何が重要かということ、「私たちに必要な」という部分である。あなたたちに付けたい力ではなく、私たちが付ける力として、子供達にきちんとメッセージを送っている。先ほど紹介した動画の一番最後だが、こういうところ、なにげなくではあるが、きちんと4つ入っている。色んな場所で、校長が紹介したような冊子や教材にも、恐らく学級会や朝の会とか、あるいは授業中でも、そういう言葉が教員の口から日常的に出ていることが想像できた。このように子供達が自分自身の目標として位置付けることが非常に重要で、資質・能力というのは当たり前のことだが、子供達にとってはゴールであり目当てである。それが教員のみ独占されてしまうと、子供達は目当てがないままやられている、これをやろう、これをやりなさい、ということになってしまう。自分たちはここにいくんだぞと分かりながら意識することが重要で、それは裏を返せば教員や保護者や地域にとっては褒めポイントである。

特に中学生は、今日のように素直に学校で話していますが、家に帰ると「今日学校どうだった」「別に」とすぐ自分の部屋に入ってしまう。だから、保護者はなかなか中学生とコミュニケーションが取れない。そこでこのような力を保護者とも共有しておき、こういうことがあったら、しつこく褒めるよう伝えておくと、保護者が褒めても「知らないよ」と、すぐに部屋に入っていくが、部屋の中でっこりしているはずである。だからこそ、保護者ともこういうものを共有することがとても重要だと思う。

そしてこのような資質・能力や豊かな教育実践をきちんとキャリア・パスポートに落とし込んでいることも、篠原中学校の非常に優れた実践だと思う。そして、事前に生徒が記入したキャリア・パスポート数枚を見たが、見ていただきたいのはまず、教職員と保護者の丁寧なコメントである。これはとても重要である。中学生は思春期なので、この現場、今この瞬間では、あまり読み込まない。こんなもの読んだってしょうがないと見向きもしない。教職員はこれに対して徒労感を感じることもあるかと思う。忙しい中、あんなに丁寧に書いたのに読みもしない。でもキャリア・パスポートは高校に持って行くものである。そうすると思春期がある程度落ち着いて、大人の仲間入りをした時に、久しぶりに高校で振り返った時に、初めてこういう言葉の重み、大人の愛情に気付く。こういうのが小学校からずっと積み重なっていくと、僕も私も色々な人から愛されて、色々な人から気遣われて育ったのだということに気付く。是非、このコメントは続けていただきたい。特に中学校の先生方は、忙しい中で書いていても、あまり子供達が見ないので寂しく感じるかもしれないが、キャリア・パスポートは必ず高校まで持って行くものなので、そのところは心に決めて丁寧にコメントを書くことを継続していただきたい。

1点だけこのシートの中で気になった点を申し上げる。篠原中学校の実践の1つ

のキーワードに、リーダーとフォロワーという言葉がある。本日の小グループの話し合いの中でも、フォロワーとして一所懸命頑張ると皆のためになるし、リーダーのためにもなるので、フォロワーは大切だ、という話をしていたので、リーダー・フォロワーという言い方は、きっと篠原中の子供達に深く浸透していると思う。ワークシートには、こんな言葉が書いてある。「あなた自身どのタイプのリーダーでしたか？フォロワーでしたか？○を付けましょう」そして4つのカテゴリーがあり、合唱コンクールや体育大会、縦割り練習等、4つあるのですが、4つともまとめてどうだったか聞いている。私個人は合唱コンクールではどちらかというフォロワーだったけど、体育大会ではリーダーシップを発揮した、という生徒もいると思う。そのため、もう少し丁寧にリーダー・フォロワーの役割が複合的に、ある時はリーダーの場合もあるし、ある時はフォロワーの場合もある、例えば今日の話し合いは、3年生が皆リーダーにならざるを得なかった。どんなに不得意な子でもとにかくリーダーになる。沈黙もあったが、リーダーになった。そういう貴重な経験をした会だったのではないかと思う。リーダーの時もあるし、フォロワーの時もある。場合によっては、1つの会で前半はリーダーだったけど、後半はフォロワーという事もある。役割は固定的なものではないということの子供達が理解できるようなシートにさせていただけるといいと思う。

これまでの浜松市の取り組みについて、はままつ人づくり未来プランの中で、キャリア教育が非常に重要な役割を果たしているということは、本日の参加者は承知しているかと思う。そして、教育長が校長会の挨拶の中で「キャリア教育元年」という言葉を使われ、今年キャリア教育を非常に重視されることを強調された。特にガイドブックの活用と、キャリア教育推進教師の活躍というのが、浜松市の中核を担うのではないかと説明があった。先ほど説明のあった資料5について、このように5つの丸が付いている。その丸のところを抜き出すと、教育総務課、指導課、教育センター、各学校、そして校長会があるが、もう一つ忘れてはならないのが、浜松市教育研究会の役割だと思う。

このように6者が連携を取りながらキャリア教育を進めていくという構造は、私が浜松市に来るようになったこの5年間で非常に大きな進展だと思う。教育委員会が総体を挙げて、そしてキャリア教育推進教師を踏まえて、校長会のバックアップを得て、そして浜松市教育研究会の中にもキャリア教育の部会を作り、推進しているということは非常に重要なことである。特に、浜松市教育研究会の中のキャリア教育部は先ほどの質問にあったように、教科学習におけるキャリア教育を中心に置いて研修を進めている。全ての教育活動を通してキャリア教育を行うという学習指導要領に基づき、子供達が最も時間を長く使う教科学習におけるキャリア教育が中心だという事はとても重要なことであると感じた。

そして、夏の浜松市教育研究会の研修会に参加したが、素晴らしい研修会だった。前半と後半に分かれて、各グループ様々な具体的なテーマを10数人から20数人のグループで、丸く椅子を並べてひざとひざをつけあわせるような形で様々な経験や悩みや疑問を同僚同士が答えていく、プロとしての重要な研修会だと思う。このような研修会が浜松市のキャリア教育を支えていると強く感じた。

そしてもう一つ強調しなくてはならないのが、このキャリア教育ガイドブックを市の教育委員会が手掛けるだけではなくて、校長会とともに作っているということである。全ての教育活動を通してキャリア教育を進めるので、例えば中核となるキャリア教育推進教師を特定したとしても、校長が断るとそこでストップしてしまう。全ての教育活動を担う中核は校長で、校長が中心となって進めていくという役割を担っているのが、浜松市の中でも非常に重要なポイントだと思う。

先ほど質問いただいた、教科におけるキャリア教育推進について、小学校は勉強が担任制なのでやりやすいが、中学校は難しいという話があった。浜松市ではキャリア A から中学校でやると言う、やはりハードルが高いと思う。なので、教員それぞれが自分の教科でキャリア A まではいかないけれども、とりあえず1年間どこかの単元でやってみる。そして、年末に種明かし会をやる。「こんなことやってみたら、こんな風に盛り上がった、こんな風に子供が変わった」そうすると4つの力のうちに、図らずも国語の先生と体育の先生が同じ力を目指してやった。それならば来年それをつないでやっっていこう、ということができてくる。そうするとキャリア A を来年からうちの学年でどうしようかという話ができるから、まずは教員が「1単元やりましょう、話し合いながらでいいですよ、とりあえずやってみましょう」というやり方もあるのかなと思う。

その時にこのキャリア教育ガイドブック、よくできていて、こんなやり方もあると書いてあるので、中学校の教員にもよく読んでいただきたいと思う。教員の中で共通用語になっている「キャリア・プレート」という言葉もあるが、これも全市共通言語としているのは浜松市だけである。色々な人が色々な呼び方をしているが、「キャリア・プレート」という言葉で通用するというのは、非常に重要なことだと思う。年間指導計画の立て方も、こんな風に立ててみてはどうか、ということも伝えている。このキャリア教育ガイドブックは、愛情がこもっていて非常によくできている。キャリア教育推進教師の選任というのが、全国的に見ても極めて先進的な取り組みである。

中学・高校には進路指導主事がいる。もちろんキャリア教育と進路指導は本来目的が一緒なので、進路指導主事がしてもよいが、問題が2つ出てくる。1点は小学校には進路指導主事がないということと、もう1点はどうしてもかつての高度経済成長の頃の、「進路指導といえば、上級学校に行かせること」という固定観念があり、どうしても進路指導主事はそこに力点を置きがちである。ちゃんと本筋を握ったキャリア教育推進教師をまず置いて、進路指導主事や教務主任や、研修主任などと連携をする。そういった役割を担う教員を置いていることは非常に重要なことだと思う。

今後重要になってくるのはPDCAサイクルの確立であり、浜松市は市をあげて行っている。昨年10月の例だが、教員・児童生徒・保護者・地域住民の皆さんにとって、キャリア教育がどうだったかということ、きちんと見取っている。しかも、モデル校とそうでない学校の差まできちんと作っていて、施策の見通し、PDCAそして、実践のPDCAをきちんとまわしているということが、全国的にも珍しい優れた事例だと思う。最後に申し上げたいのは、今後どうしていきたいかというこ

とだが、浜松市にお願いしたいのは、先進自治体なんだということを実感していただきたい。「こんなもんだろう」と思っている教員の中にはいるかもしれないが、なかなかこのようにはいかない。まずは先進自治体であるという自覚を持ち、そして、新しい取り組みをした時に、それまでの事も含めてモニタリングしていただきたい。PDCA の確立をしていただきたい。先ほどまさに篠原中学校では、キャリア・パスポートであったりとか、先生方の見取りであったりとか、様々なアンケート等、こういったことを継続していただきたいと思う。

そして最後お願いしたいのは、情報発信である。優れた実践がたくさんあるので、市内や各地に向けた情報発信をしていただきたいと思う。キャリア教育を進めるにあたって、子供達の変容というのが一番の原動力である。子供達がどんな風変わったか、きちんと市内の教員に発信していただきたい。今日黒柳委員の発言にもあったが、保護者や市民も、そういった情報を待っていると思うので、お願いしたい。

全国に向けて、先進自治体としてのモデルの発信もしていただきたい。優れた資料もいっぱい作っており、例えば浜松市のキャリア教育ガイドブックは非常に優れているが、全国的にアクセスしにくい環境にある。もし可能であれば、インターネット上にあげると、全国の取り組みのレベルアップにもつながり、保護者や事業者からもアクセスできるようになる。どういう子供を育てたいのかということ共有した上でPDCA サイクルを回していくというのが重要なので、子供の顔とか、プライバシー・肖像権とかあるため、全てをインターネットに載せるのは難しいかと思うが、可能な範囲で外部に発信していただきたい。例としては、島根県が全国への発信に取り組んでいるが、島根県がどんな風に作っているのか見ると、他の自治体にとってヒントになる。先進自治体は、全国の自治体を引っ張り上げるといふことも考えていただければと思う。

(教育長) 意見等があればお願いしたい。

(田中委員) 私自身も職場体験や、キャリア教育の講話に携わったことがある。その際、子供達に「仕事をする上で大切なことは何か」と問いかけている。答えは職種によって違うかと思うが、責任をもって働く、組織に対して自分がどうしたら貢献できるかという事を常に考えるよう話をしている。今日の取り組みを見て、この取り組みの中で子どもたちが大きくなって行って、浜松市に貢献してもらえると、とても有難いし心強いと思う。少人数の話し合いの中でもあったが、リーダー的な人の発言権が強くなるというのは、職場の中でも起こることだと思うが、そういう事が得意でない人間であってもキャリア・パスポートの中で自分ができることが何かということ、子供達が考えていけるように協力していただけたらいいなと思う。

6 その他

(教育長)

その他、事務局から連絡事項はあるか。

(事務局)

11月11日(木)に教育会館でキャリア教育推進フォーラムを開催予定である。

7 閉会

(教育長)

以上で令和3年度第1回 はままつ人づくり未来プラン推進委員会を閉会する。